# Operation Guide 2763

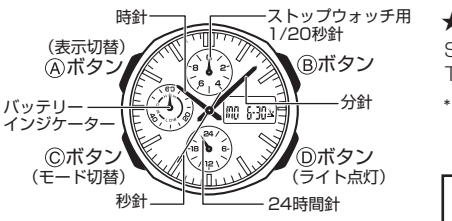
CASIO

## 操作のしくみと表示の見方 ※表示例では、アナログ（針）部を省略する場合があります。

**Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。**

※アラームモード（ターゲットアラームの残り時間表示は除く）、リコールモード、ハンドセットモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

### 時刻モード



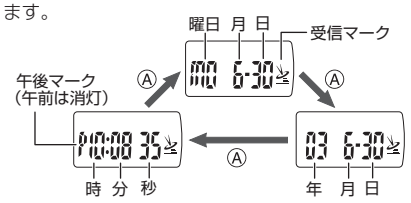

**★曜日の見方**

SU：日　MO：月　TU：火　WE：水
TH：木　FR：金　SA：土

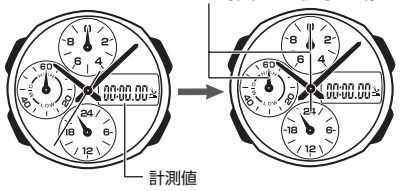
*バッテリーインジケーターの見方については「●バッテリーインジケーターの見方」、受信マークの見方については「●受信マーク」参照。

**★表示切替について**

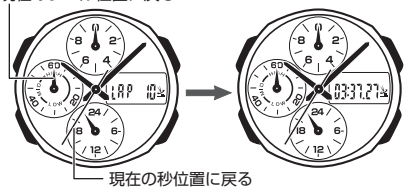
Ⓐボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。



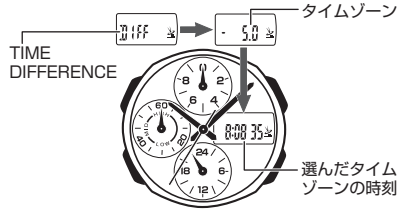

### ストップウオッチモード



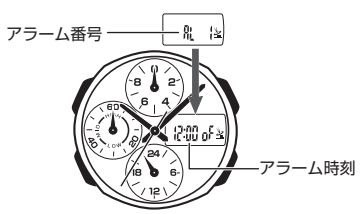

### リコールモード



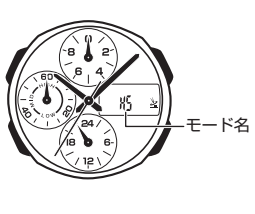

### デュアルタイムモード




### アラームモード




### ハンドセットモード

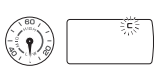



## 電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると（レベル4）、メモリーされているデータや設定データは消去されます。

### ●バッテリーインジケーターの見方

| | | |
|---|---|---|
| レベル1 |  | すべての機能が使用可能 |
| レベル2 |  | すべての機能が使用可能 |
| レベル3 |  | 液晶表示、ライト点灯、アラーム・時報などの報音、電波受信、運針が不可 |
| レベル4 |  | 時計発振不可（時計機能停止） |

※ストップウオッチモードでは、バッテリーインジケーターはストップウオッチ用分針として動きます。
※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケーターが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル2にまで充電が回復すれば電波受信を開始します。
※レベル4 になっても、充電を開始すると再び使えるようになりますが、表示回復後に時刻・カレンダーを合わせてください。

### ●充電必要サイン

レベル3の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

### ●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 電波受信
- 運針

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。




### ●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
●炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
●白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
●直射日光が長く当たって、高温になる所
なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

### ●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例）時計の置き方




※イラストは樹脂バンドの場合です。

### ●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約5ヶ月動き続けます。

1日あたりの使用量
- ライト：約 1.5 秒間
- アラーム報音：約10秒間
- 電波受信：5回

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

| 環境（照度） | 充電時間 |
|---|---|
| 晴れた日の屋外など（50,000ルクス） | 約5分 |
| 晴れた日の窓際など（10,000ルクス） | 約24分 |
| 曇り日の窓際など（5,000ルクス） | 約48分 |
| 蛍光灯下の室内など（500ルクス） | 約8時間 |

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

- 各レベルに回復するための充電時間

| 環境（照度） | 充電時間 | | |
|---|---|---|---|
| | レベル4 ➡ レベル3 | ➡ レベル2 | ➡ レベル1 |
| 晴れた日の屋外など（50,000ルクス） | 約1時間 | 約14時間 | 約4時間 |
| 晴れた日の窓際など（10,000ルクス） | 約3時間 | 約71時間 | 約20時間 |
| 曇り日の窓際など（5,000ルクス） | 約5時間 | ― ― ― | ― ― ― |
| 蛍光灯下の室内など（500ルクス） | 約49時間 | ― ― ― | ― ― ― |

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

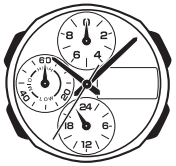
# パワーセービング機能について

本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。
※パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

### ●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  暗いところで本機を３～４日間放置します。
  ➡液晶表示が消えます。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで４日間経過します。
  ➡アラーム・時報の報音は行ないません。
  アナログ針は運針を停止し、自動受信も行ないません。
  ※時計機能は正常に作動しています。



### ●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押すか、オートライト（「●文字板を発光させる」）のように傾けたりします。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大２秒かかる場合があります。

### ●パワーセービング機能のON／OFF

パワーセービング機能を働かせなくするには「■セットのしかた」からの操作をご覧になり、パワーセービング機能をOFFにしてください。

> 机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

### ●文字板を発光させる




※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。
※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を±15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



〈ご注意〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に操作確認音の鳴るボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。

〈オートライトご使用時の注意〉

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつけると、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約1.5秒または約２秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

# ライト点灯について

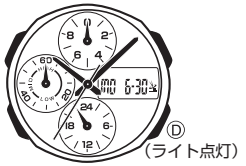
本機にはLEDライトがついており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けると暗いときに文字板が発光するオートライト機能もあります。

## ■ボタンを押して発光させる
### ～手動発光～

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、

**Ⓓ ボタンを押します**

➡Ⓓ ボタンを押すと約1.5秒または約2秒間文字板が発光します。



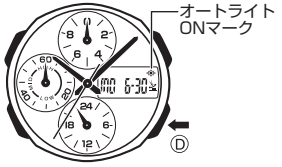

※オートライトOFFのときもⒹボタンを押すと発光します。
※ライトの発光時間は設定により異なります（「■ライトの発光時間を設定する」参照）。

> 本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

## ■時計を傾けて発光させる
### ～オートライト機能～

> オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけで文字板が発光する便利なフルオートライト機能です。
> ※明るいときは、自動発光しません。
> 暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。
> オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾けるだけで文字板が約1.5秒または約2秒間発光します。

準備：セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでもⒹボタンを約２秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。




※オートライトONのとき、Ⓓボタンを約2秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

## ■ライトの発光時間を設定する

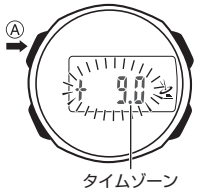
ライトの発光時間は約1.5秒と約２秒の２パターンあり、切り替えることができます。

### 1. セット状態にする

時刻モードのとき

**Ⓐ ボタンを約２秒間押します**

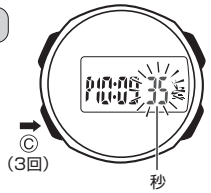
➡タイムゾーンが点滅します。
※秒針が12時位置まで移動して止まります。




### 2. 「秒」のセットに切り替える

**Ⓒ ボタンを３回押します**

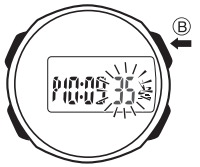
➡「秒」が点滅します。



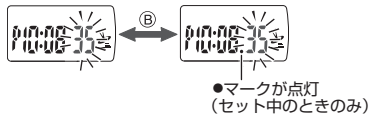

### 3. セットする

**Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓑ ボタンを押すごとに発光時間の設定が切り替わります。




※ 発光時間約1.5秒＝●マークなし
発光時間約２秒＝ ●マークあり




### 4. セットを終わる

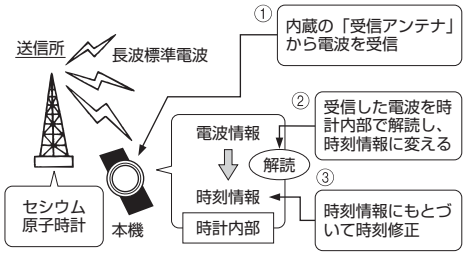
**Ⓐ ボタンを押します**

➡点滅が止まり、セット完了です。
※ セットを終わると、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

# 電波時計について

## ■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。




電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

## ■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人通信総合研究所（CRL）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

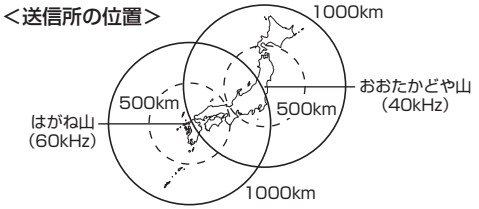
## ■ 電波の受信範囲の目安

本機は、時刻モードでタイムゾーンを下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます。（タイムゾーンの設定により受信する電波は異なります）

* タイムゾーンの設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

| タイムゾーン | 受信電波 |
|---|---|
| +9.0 | 「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。 |
| −5.0、−6.0、−7.0、−8.0 | コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。 |

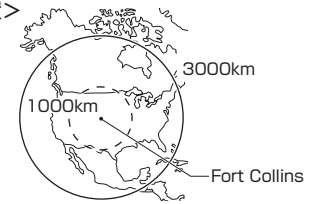
＜送信所の位置＞




●条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞




●条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。

※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

## ■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

## ■ 受信方法について

受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信（午前12・1・2・3・4時に自動受信します）

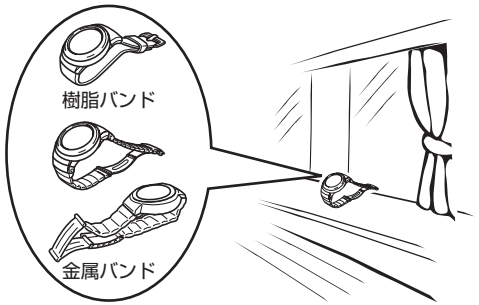
2 手動受信（ボタンを押して手動受信します）

※自動受信が一度も成功しなかった場合にのみ午前5時に受信を行ないます。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

### ●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。




●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。

●受信中、時計を動かさないようにしてください。

### ●受信時間は？

受信時間はおよそ２～７分です。

※ただし、受信電波の設定で「A（自動選局）」を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大14分かかる場合があります。

* 受信電波の設定については「■受信電波の設定」参照。

### ●手動受信

時刻モードのとき

Ⓑ ボタンを約2秒間押し続けます




➡確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は表示が点滅して、受信マーク“ ”が変化します。

**★受信を中止するときは**

Ⓑ ボタンを押します

※受信中は Ⓑ ボタン以外の操作はできません。

**★受信が成功すると**

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

※受信マーク“ ”が点灯します。

※秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

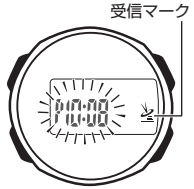
**★受信が失敗すると**

時刻修正は行なわれず、“-- -- --”を表示します。

※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。

### ●受信マーク

受信中は受信状態によって受信マークが変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。







※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

●受信マークは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。

●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

### ●受信中のアナログ部（針）について

秒針……受信開始とともに12時位置まで移動して止まります。

※受信終了後、運針を再開します。

※ボタンを押して受信を中止したときは、デジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

時・分針…通常通り運針します。

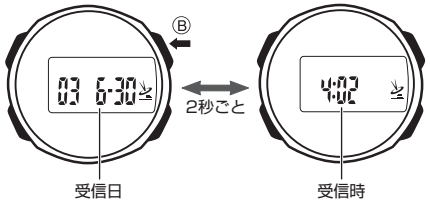
受信中は秒針が動きませんのでご注意ください。

### ●受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓑ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した日付と時分を表示します。
※受信日と受信時は2秒ごとに切り替わって表示されます。
※時刻モードに戻すには、もう一度 Ⓑ ボタンを押します。
※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。




## ■受信電波の設定

自動受信の ON／OFF を切り替えることができます。
なお、タイムゾーンを＋9.0（東京）に設定しているときは、受信する電波を選ぶことができます。
* タイムゾーンの設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方参照。

※工場出荷時には、「タイムゾーン＝＋9.0（東京）、受信電波＝A（自動選局）」でセットされています。
※タイムゾーンの設定が＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0のとき、以下の操作を行なうことができます。

### 1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

Ⓑ ボタンを押します

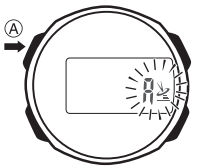
➡受信日時を表示します。
※ 何も操作をしないと、1～2 分後時刻モードに戻ります。




### 2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

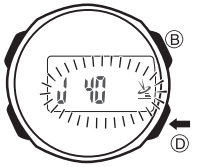
➡表示が点滅して、受信電波の設定になります。




### 3. セットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡ⒹまたはⒷボタンを押して、受信電波をセットします。




### 4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。
※ 時刻モードに戻すには、Ⓑ ボタンを押します。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。




**★タイムゾーンの設定が＋9.0の場合**

| |
|---|
| ● A（AUTO）<br>自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。<br>※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。 |
| ● J 40<br>自動受信はONになり、「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」からの電波のみ受信します。 |
| ● J 60<br>自動受信は ON になり、「はがね山標準電波送信所（60kHZ）」からの電波のみ受信します。 |
| ● OFF<br>自動受信は OFF になります。 |

**★タイムゾーンの設定が－5.0、－6.0、－7.0、－8.0の場合**

| |
|---|
| ● W 60<br>自動受信はONになり、コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。 |
| ● OFF<br>自動受信は OFF になります。 |

## ■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとデュアルタイムモードでのみ行なわれます。
●電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ針部が修正されます。
アナログ針部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ針部の時刻を合わせてください。
●受信中は、アナログ秒針部は動きませんので、時刻がずれていることがあります。
●自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
●電波受信を行なわないときは、月差平均±15秒以内の精度範囲で動きます。
●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

## ■こんなときには

***手動受信ができない***

原因：・時刻モード以外のときは、手動受信はできません。
・タイムゾーンの設定が＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0以外のときは、手動受信はできません。

処置：・手動受信は時刻モードで行なってください。
・タイムゾーンの設定が＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0のとき、手動受信を行なうことができます。「ホームタイムデータ（時間・カレンダー）の合わせ方」からの設定をご覧になり、タイムゾーンを合わせてください。

***「自動受信ON」に設定しているのに“”マークが消えている***

原因：・“”マークは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。
・一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません（毎日午前３時に消えます）。
・自動受信のとき、時刻モードまたはデュアルタイムモード以外のモードになっていた。
・手動で時刻修正をすると、“”マークは消えます。

処置：・電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。
・「受信成功」しやすい環境で使用してください。
・自動受信を行なうときは、時刻モードまたはデュアルタイムモードにしておいてください。

***電波受信をしても時刻が合わない***

原因：・サマータイムがONになっているか、タイムゾーン設定を間違えていませんか。

処置：・1時間進んでいるとき(DSTマーク点灯)はサマータイムがONになっています。また、大きく違っているときはタイムゾーンを間違えています。
「ホームタイムデータ（時間・カレンダー）の合わせ方」からの設定をご覧になり、正しく合わせてください。

***受信電波の設定ができない***

原因：・タイムゾーンの設定が＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0 以外のときは、受信電波の設定はできません。

処置：・タイムゾーンの設定が＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0のとき、受信電波の設定を行なうことができます。「ホームタイムデータ（時間・カレンダー）の合わせ方」からの設定をご覧になり、タイムゾーンを合わせてください。

●電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※ 本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

| | | |
|---|---|---|
| 受信電波 | A | 日本の標準電波（40kHz/60kHz）を自動選局 |
| タイムゾーン | + 9.0 | 東京（日本）のタイムゾーン |
| サマータイム | OS A | 電波受信による自動切り替え |

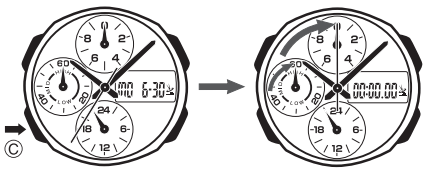
# ストップウオッチの使い方

Ⓒボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

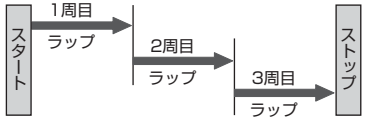
ストップウオッチは、1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。
また、ラップ／スプリット計測を行なうと、そのときのタイムを最大50本までメモリーし、メモリーしたタイムはリコールモードで簡単に見ることができます。

ストップウオッチモードに切り替えると、ストップウオッチ用の針が12時位置まで移動して止まります。
※計測中のときは、針が計測値と同じ位置まで移動して、動き出します。

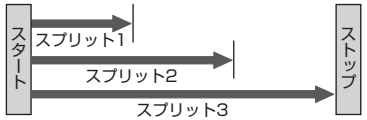
〈時刻モード〉 〈ストップウオッチモード〉



**★ラップタイムとは**
任意の区間（周回競技では1周分）を進むのに要する時間のことです。
例：陸上、モータースポーツなどの周回競技での1周あたりのタイム。

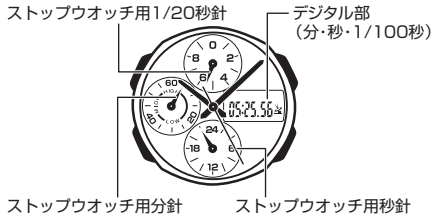



**★スプリットタイムとは**
スタート地点から任意の地点までの経過時間のことです。
例：マラソンの10Km地点まで走ったときのタイム。




## ■ストップウオッチ用の針について

ストップウオッチモードでは、デジタル部とアナログ部（針）で、それぞれ計測時間を表します。
ストップウオッチ用の針は、計測開始と同時に動き始め、計測を終了すると止まります。
計測値をリセットすると、12時位置に戻ります。
※ストップウオッチモードでは、秒針はストップウオッチ用秒針として、バッテリーインジケーターはストップウオッチ用分針として動きます。
※ストップウオッチ用1/20秒針は、計測開始およびモード切替から1分間すると12時位置で止まります。計測を終了すると、計測値と同じ位置まで移動します。



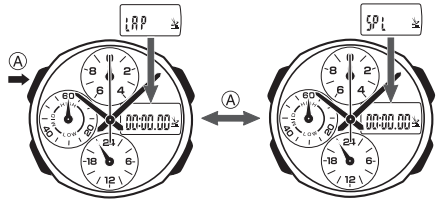

## ■表示切替について

ストップウオッチモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐボタンを押すごとにラップ表示“LAP”とスプリット表示“SPL”が切り替わります。
※ ラップ表示のときはラップタイムを、スプリット表示のときはスプリットタイムを表示します。
※ どの表示を選んでも、ラップ／スプリットタイムのメモリーは両方行なわれます。

〈ラップ表示のとき〉 〈スプリット表示のとき〉



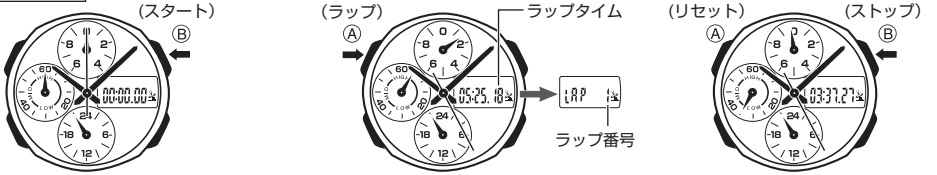
## ■計測のしかた

**計測開始**
Ⓑ ボタンを押します
➡計測がスタートします。
※ 計測値をリセットしてから、新しい計測を始めると、前回メモリーしたタイムはすべて自動的に消去されます。

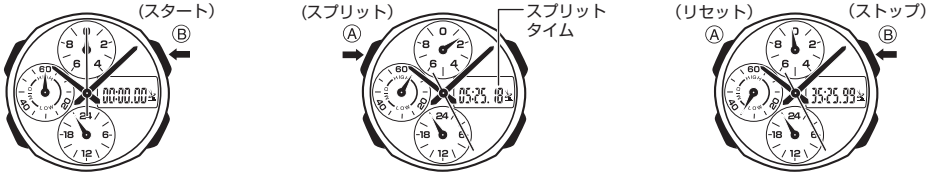
**ラップ／スプリット計測**
Ⓐ ボタンを押します
➡Ⓐ ボタンを押したときのタイムを5秒間表示し、メモリーします（内部では計測を続けています）。
※ 表示は止まりますが、ストップウオッチ用の針は動き続けます。

**計測終了**
Ⓑ ボタンを押します
➡計測がストップします。
※ 計測終了後Ⓐボタンを押すと、計測値が0に戻ります（リセット）。このとき、終了時のラップ／スプリットタイムをメモリーします。

ラップ表示のとき




スプリット表示のとき




### ●通常計測

Ⓑ スタート → Ⓑ ストップ → Ⓐ リセット

積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓑ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

### ●ラップ／スプリットタイム計測

Ⓑ スタート → Ⓐ ラップ スプリット → Ⓐ ラップ スプリット → Ⓑ ストップ → Ⓐ リセット

### ●1・2着同時計測（スプリット表示のとき）

Ⓑ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓑ 2着ゴール（2着タイム表示） → Ⓐ リセット

**★ラップ／スプリットタイムのメモリーについて**
ラップ／スプリットタイムは最大50本までメモリーできます。50本を超えると一番古いデータが消去され、最新データがメモリーされます。

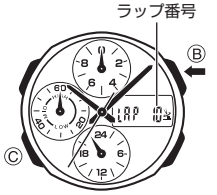
## ■計測したデータを見る

メモリーしたデータはリコールモードで見ることができます。

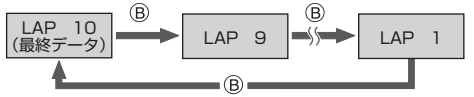
準備：Ⓒ ボタンを押して、リコールモードにします。

### 1. データを送る

Ⓑ ボタンを押します
➡Ⓑ ボタンを押すごとに最終データからラップ番号順に表示していきます。
※ 押し続けると早送りします。
※ ラップ番号を表示後、ラップタイムまたはスプリットタイムを表示します。



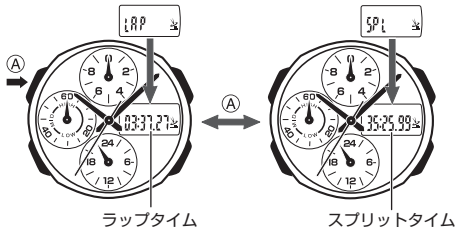

例）ラップ／スプリットタイムを10本記憶したとき



### 2. ラップタイム／スプリットタイムを見る

Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐ ボタンを押すごとにラップタイムとスプリットタイムを表示します。




**★データ消去について**

●計測値をリセットしてから、新しい計測を始めると、前回メモリーしたタイムはすべて自動的に消去されます。

●手動でデータを消去するときは、リコールモードのとき、Ⓐ ボタンとⒷ ボタンを同時に約２秒間押すと、すべてのデータが消去されます。

※データ消去後、“LAP - -”表示になります。

※特定のデータのみ消去することはできません。

## デュアルタイムの使い方

Ⓒボタンを押して、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムモードでは、29 タイムゾーンの時刻を簡単に知ることができます。

※デュアルタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見たタイムゾーンの時刻を表示します。

※デュアルタイムモードの「秒」は時刻モードの「秒」に連動しています。

※時刻モードを24時間制に設定しているときは、デュアルタイムモードも 24 時間制で表示されます。

**ご注意**

選んだタイムゾーンの標準時が合っていないときは、時刻モードの時刻およびタイムゾーン設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

* セットについては「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。

### ■ タイムゾーンのサーチ

デュアルタイムモードのとき

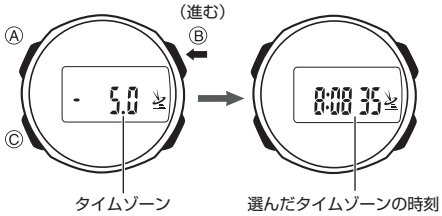
Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓑボタンを押すごとにタイムゾーンが進みます。タイムゾーン表示後、そのタイムゾーンの時刻を表示します。

※押し続けると早送りします。

※デュアルタイムモードではコロン（：）が点滅します。

※Ⓐボタンを押すと、タイムゾーンを約1秒間表示します。



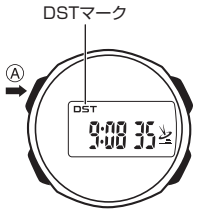

### ■ サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

### ■ サマータイムのON／OFF設定

準備：デュアルタイムモードのとき、Ⓑ ボタンを押して、設定したいタイムゾーンを選びます。

Ⓐ ボタンを約２ 秒間押します




➡Ⓐ ボタンを約2秒間押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。

※ サマータイムがＯＮのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より１時間進みます（タイムゾーンも１時間進みます）。

※ 各タイムゾーンごとにサマータイムを設定することができます。ただし、“GO.0”と時刻モードで設定しているタイムゾーンを表示しているときはサマータイムの設定はできません。

### ■ タイムゾーン一覧

| タイムゾーン | 代表都市名 | タイムゾーン | 代表都市名 |
|---|---|---|---|
| +12.0 | ウェリントン、クライストチャーチ | +1.0 | パリ、ローマ、マドリード、フランクフルト |
| +11.0 | ヌーメア、ポートビラ | | |
| +10.0 | シドニー、グアム | +0.0 | ロンドン、ダブリン |
| +9.5 | アデレード | G 0.0 | <グリニッジ標準時> |
| +9.0 | 東京、ソウル、平壌 | −1.0 | アゾレス諸島 |
| +8.0 | 香港、シンガポール、クアラルンプール、北京、台北、マニラ | −2.0 | |
| | | −3.0 | リオデジャネイロ、サンパウロ、ブエノスアイレス |
| +7.0 | バンコク、ジャカルタ、ハノイ | −4.0 | カラカス、サンティアゴ |
| +6.5 | ヤンゴン | −5.0 | ニューヨーク、モントリオール、マイアミ、ボストン |
| +6.0 | ダッカ | | |
| +5.5 | デリー | | |
| +5.0 | カラチ | −6.0 | シカゴ、ヒューストン、メキシコシティ |
| +4.5 | カブール | | |
| +4.0 | ドバイ、アブダビ | −7.0 | デンバー、エルパソ、エドモントン |
| +3.5 | テヘラン | | |
| +3.0 | ジェッダ、クウェート、モスクワ | −8.0 | ロサンゼルス、サンフランシスコ、ラスベガス |
| +2.0 | アテネ、カイロ、エルサレム、ヘルシンキ、ベイルート | −9.0 | アンカレジ、ノーム |
| | | −10.0 | ホノルル、パペーテ |
| | | −11.0 | パゴパゴ |

※ この表は 2003 年 6 月現在作成のものです。

※ この表のタイムゾーンは協定世界時(UTC)を基準としたものです。

# アラーム・時報の使い方　Ⓒボタンを押して、アラームモードにします。

## ■ アラームの使い方

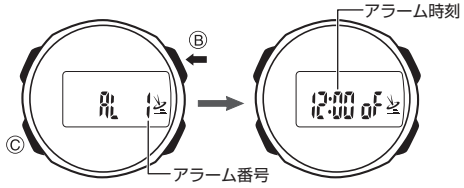
時分を設定できるアラームが5本あり、セットした時刻に10秒間電子音を鳴らすことができます。

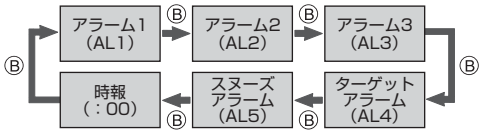
### ●アラーム時刻や残り時間を見る

アラームモードのとき

**Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓑボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。アラーム番号を表示後、アラーム時刻を表示します。




**★アラームの種類**

| |
|---|
| ●通常アラーム（AL 1 ～ AL 3）<br>セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴ります。 |
| ●ターゲットアラーム（AL 4）<br>セットした時刻までの残り時間を表示します。セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴ります。 |
| ●スヌーズアラーム（AL 5）<br>セットした時刻になると、10秒間電子音が鳴り、5分おきに合計7回報音を繰り返します。なお、ボタンを押して音を止めても、再び鳴り出します。 |

**★残り時間表示について**

ターゲットアラーム（AL 4）がONのときは、アラーム時刻を表示後、セットした時刻までの残り時間を表示します。



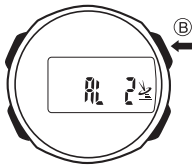

### ●アラーム時刻のセット

**1.** セットしたいアラームを選ぶ

アラームモードのとき

**Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓑ ボタンを押して、セットしたいアラームを選びます。

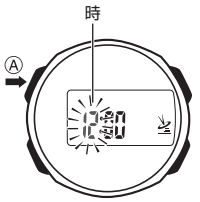



**2.** セット状態にする

**Ⓐ ボタンを約2 秒間押します**

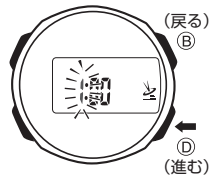
➡「時」が点滅します。

※ セット状態にすると、自動的にアラームが ON になります（スヌーズアラームのときはスヌーズマーク“SNZ”が点灯します）。




**3.** 「時」をセットする

**Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します**




➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

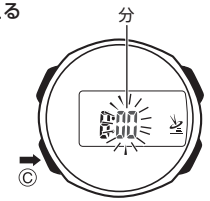
※「時」のセットのとき午前／午後（P）または24 時間制にご注意ください。

※ 時刻モードを24時間制に設定しているときは、アラームモードも24 時間制で表示されます。

**4.** 「分」のセットに切り替える

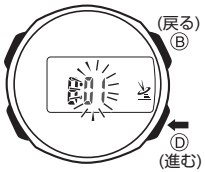
**Ⓒ ボタンを押します**

➡「分」が点滅します。




**5.** 「分」をセットする

**Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します**

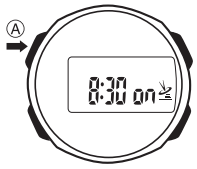



➡Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

**6.** セットを終わる

**Ⓐ ボタンを押します**




➡点滅が止まり、セット完了です。

※ セット終了後、アラームモードで“ｏｎ”が表示されます。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

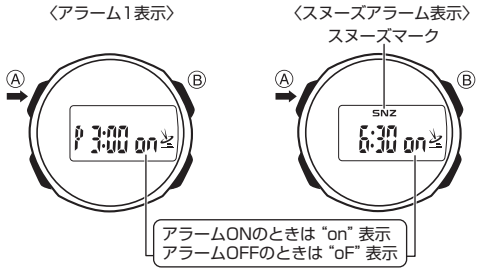
### ●アラームの ON ／ OFF 設定

準備：アラームモードのとき、Ⓑ ボタンを押して、設定したいアラーム（AL 1 ～ AL 5）を選びます。

**Ⓐ ボタンを押します**

➡Ⓐ ボタンを押すごとにアラームの ON ／ OFF が切り替わります。

※ アラームをONにすると、“ｏｎ”が表示されます。なお、スヌーズアラームのときはスヌーズマーク“SNZ”も点灯します。




※“ｏｎ”または“ｏＦ”はアラームモードでのみ表示されます。なお、スヌーズマーク“SNZ”はどのモードのときでも表示されます。

### ●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

※スヌーズアラームのときは、約５分後に再び鳴り出します（スヌーズアラーム機能中はスヌーズマークが点滅します）。

※スヌーズマーク点滅中に以下の操作を行ないますと、スヌーズアラーム機能が中断されます。

●アラームモードでスヌーズアラームをOFFにしたとき。

●アラームモード（スヌーズアラーム）でセット状態にしたとき。

●時刻モードで時刻セット状態にしたとき。

### ●モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓑ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

## ■ 時報の使い方

毎正時（00 分）に“ピッピッ”と電子音を鳴らすことができます。

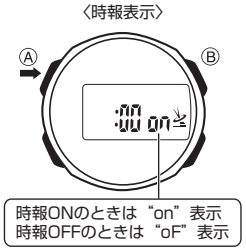
### ●時報の ON ／ OFF 設定

準備：アラームモードのとき、Ⓑ ボタンを押して、時報表示（：00）を選びます。

**Ⓐ ボタンを押します**

➡Ⓐ ボタンを押すごとに時報のON／OFF が切り替わります。

※ 時報を ON にすると、“ｏｎ”が表示されます。




※“ｏｎ”または“ｏＦ”はアラームモードでのみ表示されます。

# ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域（タイムゾーン）や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

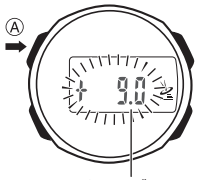
## ■ セットのしかた

### 1. セット状態にする

時刻モードのとき

**Ⓐ ボタンを約２秒間押します**

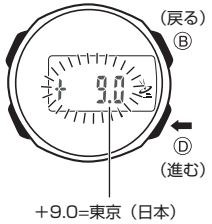
➡タイムゾーンが点滅します。
※ 秒針が12時位置まで移動して止まります。




### 2. タイムゾーンを選ぶ

**Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓓ ボタンを押すごとにタイムゾーンが進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域（タイムゾーン）を選びます。
*「■タイムゾーン一覧」参照。
※ Ⓓ·Ⓑボタンとも、押し続けると早送りします。

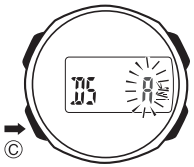



+9.0=東京（日本）

### 3. 「サマータイム切替」にする

**Ⓒ ボタンを押します**

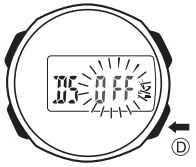
➡サマータイムの切り替えになります。




### 4. 切り替える

**Ⓓ ボタンを押します**

➡Ⓓ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



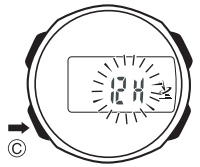

| |
|---|
| ● DS　A<br>電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。<br>※タイムゾーンの設定が＋9.0のときは日本のサマータイム情報に、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0のときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。 |
| ● DS　OFF<br>サマータイムは OFF になります（通常時間）。 |
| ● DS　On<br>サマータイムは ON になります（夏時間）。<br>※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より１時間進みます。 |

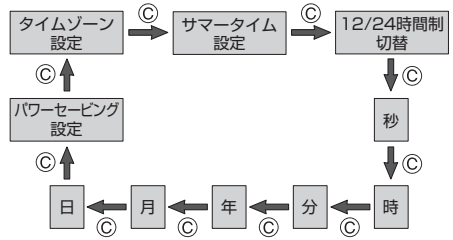
※タイムゾーンの設定が＋8.0、＋9.0、－5.0、－6.0、－7.0、－8.0、－9.0、－10.0以外のときは、「DS OFF」⇔「DS On」で表示が切り替わります。

### 5. 「時刻・カレンダー」合わせ

a. **Ⓒ ボタンを押します**

➡Ⓒ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。



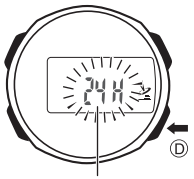

b. **Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します**

➡Ⓓ または Ⓑ ボタンで点滅箇所をセットします。

---

**★「12/24 時間制切替」のときは…**

Ⓓ ボタンを押すごとに12時間制表示“12H”と24時間制表示“24H”が切り替わります。

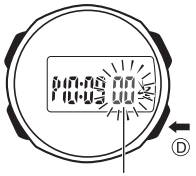



12/24時間制

**★「秒」セットのときは…**

Ⓓ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

※秒が00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）

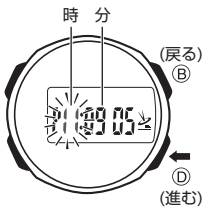



00秒になる

**★「時」「分」「年」「月」「日」セットのときは…**

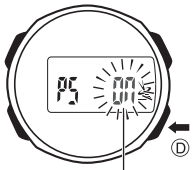
Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓓ·Ⓑボタンとも、押し続けると早送りします。




**★「パワーセービング設定」のときは…**

Ⓓ ボタンを押すごとにパワーセービング機能のON／OFFが切り替わります。




on=ON設定
OFF=OFF設定

**Ⓒボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓓまたは Ⓑボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。**

※「時」のセットのとき午前／午後（P）、または24 時間制にご注意ください。
※「年」は00（2000年）～99（2099年）の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。
※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

### 6. セットを終わる

**Ⓐ ボタンを押します**

➡ 点滅が止まり、セット完了です。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

**<シンクロ機能>**

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り（正転方向）または戻されます。
※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。
※時・分針を修正後、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

## ■ アナログ部（針）の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときや針位置がずれているときは、ハンドセットモードで合わせてください。

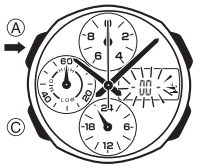
準備：Ⓒ ボタンを押して、ハンドセットモードにします。

### 1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

**Ⓐ ボタンを約２秒間押します**

➡秒針が12時位置まで移動して止まり、“ - 00 - ”が点滅します。




### 2. 秒針を 12 時位置に合わせる

**12 時位置に合わない場合は、Ⓓボタンを押して合わせます**

➡Ⓓ ボタンを押すごとに１秒ずつ進みますので、12時位置に合わせます。
※ 押し続けると早送りします。

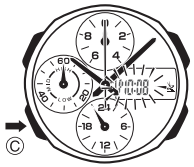


CASIO

### 3. 時針・分針の修正に切り替える

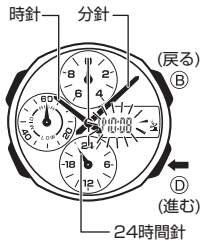
Ⓒ ボタンを押します

➡「時・分」が点滅します。




### 4. 時針・分針を合わせる

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します




➡Ⓓ ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分（20 秒）ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので、デジタル部の「時・分」丁度に合わせます。

※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

※ 24 時間針は時針・分針に連動しています（24 時間で 1 回転します）。時針・分針セットのときは、デジタル時刻の午前／午後に注意して、24 時間針の位置も正しく合わせてください。

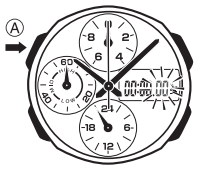
＜針の自動早送り＞

- Ⓓボタンを押し続けて早送り中にⒷボタンを押すと、ボタンから手を離しても針が進み続けます。
- Ⓑボタンを押し続けて早送り中にⒹボタンを押すと、ボタンから手を離しても針が戻り続けます。
- 自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

### 5. ストップウオッチ用 1/20 秒針の修正に切り替える

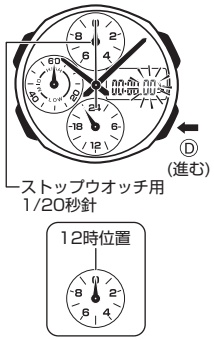
Ⓐ ボタンを押します

➡ストップウオッチ用1/20秒針の修正になります。




### 6. 針を 12 時位置に合わせる

12 時位置に合わない場合は、Ⓓボタンを押して合わせます



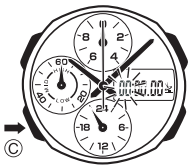

➡Ⓓボタンを押すごとに1ステップずつ進みますので、12時位置に合わせます。

※ 押し続けると早送りします。

### 7. ストップウオッチ用分針の修正に切り替える

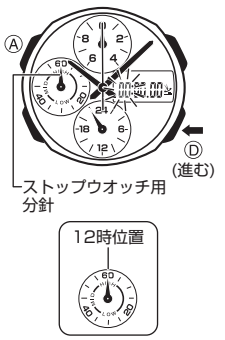
Ⓒ ボタンを押します

➡ストップウオッチ用分針の修正になります。




### 8. 針を 12 時位置に合わせる

12 時位置に合わない場合は、Ⓓボタンを押して合わせます




➡Ⓓボタンを押すごとに1ステップずつ進みますので、12時位置に合わせます。

※ 押し続けると早送りします。

### 9. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※ セットを終わると、秒針がデジタル部の秒と同じ位置まで移動して、動き出します。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。